

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	かわさき新産業創造センター(KBIC)	評価対象年度	平成24年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人 川崎市産業振興財団 ・三井物産ファシリティーズ株式会社共同事業体 ・代表者名 代表団体 公益財団法人 川崎市産業振興財団 理事長 曾禰 純一郎	評価者	次世代産業推進室 イノベーション推進担当課長
指定期間	平成24年4月1日～平成29年3月31日	所管課	経済労働局次世代産業推進室

2. 事業実績

利用実績	KBICは、これまでの本館及び別棟に加え、平成24年4月から研究棟(950㎡)が、続いて平成24年9月からクリーンルーム棟(1,530㎡)が供用開始し、合計62室及びクリーンルームの計4,738㎡の事業用スペースを提供している。平成25年3月31日時点で、23企業・7研究室が入居し、99%の入居率(面積)となっており、入居率95%以上の目標を達成した。また、この1年間に入居募集を3回行い、施設利用の促進が図られている。
収支実績	収入 指定管理料:0円、利用料金収入:160,824千円、事業収入936千円、 使用料・手数料収入等:48,434千円 合計:210,195千円 支出 人件費:62,412千円、事業費:24,511千円、施設管理費:113,558千円 合計:200,482千円 収支は9,712千円の黒字となった。
サービス向上の取組	インキュベーションマネージャーを中心に、計画値を上回るヒアリングや日常の情報交換によって要望・問題点を把握し、きめ細やかな対応を図るなど、入居企業への支援を行っている。 また、各種セミナーや技術講習会を開催するとともに、経営支援メニューの紹介、展示会への出展支援など、企業経営に資する事業を数多く実施した。 さらに、試作・加工ができる「ものづくり工房」において、技術アドバイザーによる試作支援や機器操作指導を行うことにより、ものづくり工房の利用率向上を図っている。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	10	4	8
		利用者満足度は向上しているか			
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	10	4	8
		当初の事業目的を達成することができたか			
(評価の理由) 1社当たり年3回以上というヒアリング計画に対し、インキュベーションマネージャー等によって1社当たり平均23.3回、延べ536回のきめ細やかなヒアリングを実施し、入居企業のニーズを把握するとともに、ビジネスマッチングや取引先開拓支援、各種公的支援メニューの獲得支援等、入居企業への支援に取り組んでいる点は評価できる。また、当初の事業計画のとおり充実した支援メニューを着実に実施するとともに、研修・講習会でアンケートを実施して利用者のニーズの把握に取り組んでいる。さらに、年6回の交流会等を開催し、入居企業同士の交流の場を提供している。					

収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	7	4	5.6	
		支出に見合う効果は得られているか				
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組は為されたか				
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	7	4	5.6	
		収入増加のための具体的な取組が為されているか				
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	6	4	4.8	
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
	<p>(評価の理由)</p> <p>収入は、クリーンルーム棟の供用開始等に伴い、電気料、超純水料及び特殊ガス料等の使用料収入が増加し、合計8,547千円計画を上回った。</p> <p>また、支出は、企業支援等に関する人件費を増加させたが、施設管理での環境対策費や管理委託費等の縮減を行ったことにより、1,165千円計画を下回った。よって、収支では9,712千円の黒字となった。</p> <p>入居企業に対する支援サービスや、新規入居企業募集等の業務を適切に行い、高い入居率を維持することとなり、結果として指定管理者の経営基盤の安定に寄与している。</p>					
	サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
			サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか						
業務改善によるサービス向上		実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	10	4	8	
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか				
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか				
利用者の意見・要望への対応		利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	10	4	8	
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)				
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか				
<p>(評価の理由)</p> <p>入居企業に対し、インキュベーションマネージャー等が1社平均23.3回のヒアリングを行うとともに、入居企業支援記録(支援カルテ)を作成し、その後の成長支援業務等に活用している点は評価できる。さらに、銀行や信用保証協会への入居企業の相談・融資相談などにインキュベーションマネージャーが同行し、融資の実行や弁済方法の変更に関与するなど、入居企業との信頼関係を構築し、きめ細かい支援を実施している点は評価できる。</p> <p>入居者へのアンケート等により利用者ニーズの把握を行い、自動販売機の設置や共用部閲覧用雑誌・新聞の充実など、施設管理業務等への反映を行っている。また、ものづくり基盤技術高度化促進のため、研修業務や各種セミナーなどを実施し、アンケートなどにより利用者ニーズの把握や研修事業への反映に取り組んでいる。</p>						

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	3	4	2.4
	連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	3	3	1.8
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	3	3	1.8
		緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	3	3	1.8
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	3	3	1.8
環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか				
<p>(評価の理由)</p> <p>事業計画に基づき、入居企業の成長支援のためのインキュベーションマネージャー等のスタッフの他、クリーンルームの管理運営に必要な専門的知識を有する設備管理スタッフ等を配置し、業務を遂行している。また、市担当者との定期的な会議等において入居企業や施設管理等の状況について報告し、必要に応じて指示を受けるなど、市担当者や業務の実施状況の情報共有を図りつつ、業務にあたっている。</p> <p>企業支援の過程で得た情報や重要資料等の管理に当たっては、マニュアルを整備し、適切に実施している。</p> <p>また、施設内照明器具のLED化を進めるなど、環境負荷の軽減に努めている。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	8	4	6.4
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	7	4	5.6
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
<p>(評価の理由)</p> <p>施設・設備の保守管理については、利用規定を整備し、研究棟及びクリーンルーム棟の供用開始にも適切に対応するなど、入居者への施設の安全な利用環境の提供を行っていた。また、施設内の清掃や外構・植栽の管理について、事業計画に基づき適切に実施し、清潔で快適な環境の維持に努めていた。また、クリーンルームの効用開始以降、24時間の有人警備体制とし、敷地内での事件・事故の防止に努めている。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	77.6	評価ランク	C
-------	------	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

個人の創業、企業の新たな事業分野への進出及び企業を支える基盤技術の高度化を促進するという、本施設の設置目的を踏まえ、企業等に対する事業スペースの提供に加え、マッチング支援、資金調達支援、中小企業診断士等の専門家による対応など、入居企業に対する様々な成長支援を実施している点は高く評価することができる。

また、市内企業のものづくり基盤技術の高度化に向けた支援についても、施設内の設備の利用環境を整え、入居企業の試作や加工の支援を行うとともに、3次元CAD/CAM講習会をはじめとするものづくりに携わる技術者向けの充実した内容の研修を実施している点も評価することができる。

また、新事業事務室等の利用状況において、引き続き高い利用率を維持し、利用料金収入が予算額を上回っていることは、指定管理者の経営努力の成果として評価できる。

さらに、研究棟及びクリーンルーム棟の供用開始に伴う施設の立ち上げ、安定稼働に向けた業務について、大きなトラブル等発生することなく、対応を行った。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

入居企業の更なる経営安定、技術力向上を図るための支援を引き続き高い水準で実施するとともに、平成25年度は、入居期限が到来する入居者が数多くあることから、卒業後の市内定着支援及び新たな入居者の募集・誘致に向けて、さらなる支援体制・内容の充実に向け指導していく。

また、クリーンルームでの研究活動が本格化し、空調等のクリーンルーム関連機器の稼働率も向上すると見込まれることから、最先端のナノ・マイクロ技術の研究開発に対応した高いレベルでの施設管理を行い、利用者への安定した利用環境を整えるよう指導していく。

ものづくり基盤技術高度化支援の研修等については、さらに広報活動に力を入れ、受講者の増加を図り、市内ものづくり企業のニーズに対応した講座を充実にもけた指導を行う。